

タイトル

KIBOTCHA SMART ECOVILLAGE MEMBER

スマートエコビレッジDAO ホワイトペーパー

サブタイトル

災害対応・自然共生・分散型自治の未来へ

① プロジェクトのはじまり

東日本大震災から生まれた未来のまちづくり

2011年3月11日、東日本大震災によって宮城県東松島市は甚大な被害を受けました。かつては学校だった「旧野蒜小学校」は、津波によって多くの命と記憶を失った場所でもあります。私たちはこの地に、単なる再建ではなく、災害に強く、人がつながり直し、未来に希望を残せる“生きた拠点”を生み出そうと決意しました。

この思いから誕生したのが「KIBOTCHAスマートエコビレッジ」です。「KIBOTCHA」は“希望・防災・未来(future)”という意味を込めた造語であり、未来世代が安心して生きていける地域社会の構築を目指しています。

私たちはこの地に、平時は教育と共創の場として、また有事には最大1万人が避難・自立できる環境を備えた村を築くことで、地域の防災拠点としてだけでなく、世界中の課題にローカルから解決の光を届けるグローバルモデルを構想しています。

この取り組みは、一企業だけで実現できるものではありません。地域の人々、外部からの支援者、自治体、教育機関、企業、そして世界中の共感者がつながる必要があります。私たちはそのつながりのプラットフォームとして、Web3とDAO（分散型自律組織）を選びました。

災害から立ち上がった地で、人々が再び希望を持ち、自律しながら共生できる新しい社会のあり方を「KIBOTCHA SMART ECOVILLAGE MEMBER」として実装します。

② 解決したい社会課題

- ・気候変動と災害による人の移動
- ・地域の孤立、高齢化、担い手不足
- ・教育格差、ジェンダーギャップ
- ・エネルギー・食・水の自立性の欠如

③ 私たちのビジョン

- ・平時：地域教育・観光・体験の共創拠点
- ・有事：最大1万人が避難できる自立型レジリエンス村
- ・Web3による「分散型の自治」と「貢献が評価される経済」を実現

④ KIBOTCHA DAOの構成

- ・DAO運営：KIBOTCHAスマートエコビレッジDAO合同会社
- ・NFT住民証(KIBOTCHA SMART ECOVILLAGE MEMBER)を保有し地域参加
- ・トークン(KBT)で貢献・報酬・体験が循環
- ・ガバナンスはスマートコントラクトで透明化

⑤ トークンとNFTの役割

名称	機能	対象
NFT：KIBOTCHA SMART ECOVILLAGE MEMBER	住民証・提案権、投票	支援者、居住者
KBTトークン	貢献報酬、体験通貨	すべて参加者

- ・ユーティリティトークンとして、日本法にも準拠
- ・銀行振込なし、クレジット決済のみ(暗号資産での決済も準備中)

⑥ トークノミクス(配分モデル)

項目	割合	内容
貢献者・開発者	25%	エネルギー、農業、教育等の実行部隊
文化・体験	20%	学び・自然体験・地域交流イベントへの貢献

コミュニティ管理	10%	現地サポート・バディ制度
プロモーション	15%	広報・SNS・自治体連携等
ガバナンス運営	5%	制度設計・法務・開発管理
初期ホルダー	5%	NFT早期保有者・寄付者等
DAOリザーブ	20%	将来のエリア拡張・連携地域支援用

⑦ ロードマップ

時期	施策内容
2025年Q1	NFT「KIBOTCHA SMART ECOVILLAGE MEMBER」 発行開始
2025年Q2	トークンエコノミー運用開始
2025年Q3	DAO総会・投票システム実装
2025年Q4	IEO準備とホワイトペーパー正式公開
2026年	国内外取引所上場(IEO)およびCSE上場(貴庁)

⑧ グローバル展開とバーチャル化戦略

- ・日本発の地域DAOモデルとして、アジア・中東・アフリカへの展開を視野に
- ・教育、防災、再生可能エネルギー、農業を核にした地域モデルを国際展開
- ・メタバース上に「バーチャルKIBOTCHAスマートエコビレッジ」も構築予定
 - 。世界中からDAOに参加・視察・教育プログラム体験が可能な仮想空間拠点
 - 。現実のKIBOTCHAと連携したデジタル・ツインとして機能

⑨ お問い合わせ

運営法人: KIBOTCHAスマートエコビレッジDAO合同会社

Co-Founder: 三井紀代子

メール: kiyoko@kirintyou.co.jp